

高齢者を“弱者”と認識しているのは、50歳代。

「親の衰え」に直面する年代に、悩みや不安が顕著。

～ 『高齢者のありよう、役割に関する調査』 ～

老後のライフスタイルの充実や、高齢者の自立について調査・研究・提言する、特定非営利活動法人「老いの工学研究所」（大阪府中央区、理事長：西澤一二）は、『高齢者のありよう、役割に関する調査』を実施し、20歳代～60歳代まで325名の回答を得ました。その結果の一部がまとめられましたのでお知らせ致します。

『50歳代がもっとも、高齢者を“弱者”と認識』

「高齢者は弱者か」「保護・優遇すべき対象か」についての質問に対し、肯定（「そうだ」「ややそうだ」の合計）、否定（「そうでない」「ややそうでない」の合計）した割合は、年代別に来の通りとなりました。

① 高齢者は経済的に弱者である

	肯定	否定
20歳代	30.0%	70.0%
30歳代	27.0%	73.0%
40歳代	36.8%	63.2%
50歳代	54.7%	45.3%
60歳代	42.9%	57.1%

② 高齢者は健康面において弱者である

	肯定	否定
20歳代	85.0%	15.0%
30歳代	81.0%	19.0%
40歳代	86.1%	13.9%
50歳代	93.8%	6.3%
60歳代	57.1%	42.9%

③ 高齢者は、保護されるべき対象だ

	肯定	否定
20歳代	70.0%	30.0%
30歳代	58.7%	41.3%
40歳代	68.8%	31.3%
50歳代	84.4%	15.6%
60歳代	50.0%	50.0%

④ 公的制度において、高齢者を優遇しすぎである

	肯定	否定
20歳代	57.5%	42.5%
30歳代	55.6%	44.4%
40歳代	55.6%	44.4%
50歳代	35.9%	64.1%
60歳代	64.3%	35.7%

⑤ 民間サービスで高齢者の割引制度などが多すぎる

	肯定	否定
20歳代	42.5%	57.5%
30歳代	50.8%	49.2%
40歳代	46.5%	53.5%
50歳代	39.1%	60.9%
60歳代	57.1%	42.9%

高齢者を経済的に弱者だと回答した人が、そうでないとした人を上回ったのは、50歳代のみ。健康面でも他の世代に比べて弱者だと考える傾向にありました。これを裏付けるように

50歳代は、高齢者を保護すべき対象だと考える人の割合が最も多く、公的制度や民間サービスで「高齢者を優遇しすぎだ」とした人の割合も、唯一、30%台に留まりました。

50歳代は、親が後期高齢者になる世代であり、親の衰えを実感し始め、老後を支えることに対して漠然とした不安や悩みを持つようになるためではないかと考えられます。また、60歳代で数値が戻るのは、親ではなく、自分自身の問題として捉えるようになるからだと考えられます。

【調査概要】

- ・ 調査期間：2014年1月10日～1月20日
- ・ 調査方法：インターネット
- ・ 回答者：20歳～66歳の男女325名（男性200名／女性125名）

なお、この『高齢者のありよう、役割に関する調査』では全部で27の設問があり、来月には、70歳代・80歳代が多い、当研究所のモニター会員 約1万人に対して同じ内容のアンケートを実施いたします。今回より上の世代からの回答を得ることにより、別の観点から世代間の認識ギャップを浮き彫りにし、発表する予定です。

<お問い合わせ先>

特定非営利活動法人「老いの工学研究所」

大阪府中央区伏見町四丁目2番14号

研究員 川口 雅裕

TEL：06-6223-0001

E-mail：info@oikohen.or.jp